

水道事業会計

1 事業の実績

(1) 業務概括

本年度は、前年度同様、老朽化する配水管や浄水施設機器の更新、耐震化などを主な事業として進めるとともに、田主丸地区への配水管布設事業など供給拡大のための投資が行われた。人口減少に伴う料金収入の減少と、施設の更新が重なるなど厳しい経営環境が続くと予想される中、安定的に事業を継続していくことを目的として「久留米市上下水道事業経営戦略」が策定された。

施設及び業務実績は、次表のとおりである。

区 分	令和2年度	令和元年度	増 減 数	増減率 (%)
給水区域内人口 (人) A	286,425	286,881	△456	△0.2
計画給水人口 (人)	286,700	286,700	0	0
現在給水人口 (人) B	275,929	275,953	△24	△0.0
普及率 (%) B/A	96.3	96.2	0.1	
導送配水管延長 (m)	1,393,022	1,374,880	18,142	1.3
職員数 (人)	73	78	△5	△6.4
※()内は短時間勤務職員数で外数	(5)	(3)	(2)	
総給水量 (m ³)	28,089,099	27,852,680	236,419	0.8
給水能力 (m ³ /日) C	146,000	146,000	0	0
1日平均給水量 (m ³) D	76,956	76,100	856	1.1
1日最大給水量 (m ³) E	88,021	82,792	5,229	6.3
施設利用率 (%) D/C	52.7	52.1	0.6	
最大稼働率 (%) E/C	60.3	56.7	3.6	
負荷率 (%) D/E	87.4	91.9	△4.5	

(2) 給水人口及び普及率等の主な増減の内容

給水区域内人口は、前年度から減少している。現在給水人口もわずかだが減少している。

普及率は、給水区域内人口における現在給水人口の割合が増加したため、前年度より 0.1 ポイント上昇して 96.3%となった。

(3) 水道施設の利用状況について

施設利用率は施設の平均的な稼働状況を示すものである。給水能力に変動はなかったが、1日平均給水量が増加したことで上昇している。

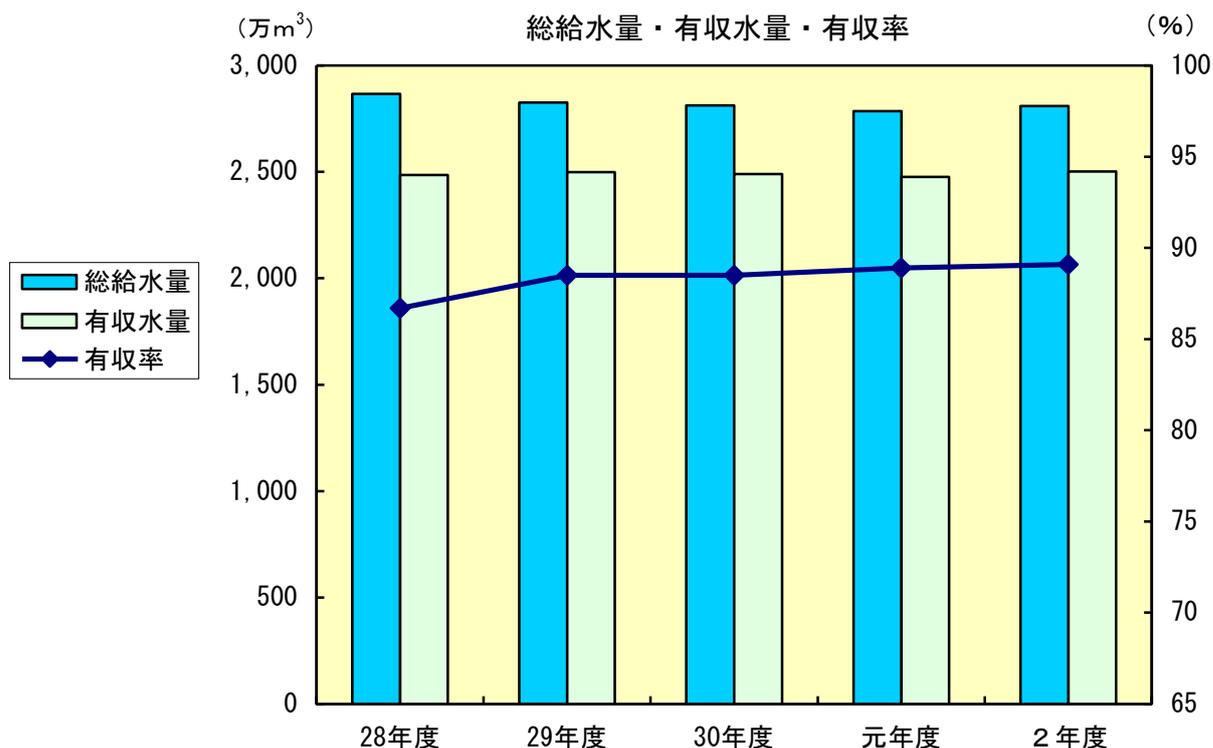
最大稼働率は1日給水量が最大のときの施設の利用率を示す指標であり、これも上昇した。

負荷率は、施設の効率を示す指標であり、1日最大給水量に対する1日平均給水量の比である。1日平均水量の増加以上に1日最大給水量が増加した結果、4.5ポイント低下した。

(4) 総給水量、有収水量及び有収率の主な増減の内容

総給水量は、前年度比 236,419 m³の増加となっている。主な要因は、一般家庭用の使用量が増加し、メーターで計測された有効水量のうち、料金徴収の対象となる有収水量が増加（263,055 m³）したことである。しかしながら、配水管からの漏水などの無効水量も、前年度に比べ増加（29,710 m³）している。総給水量に対する有収水量の比率である有収率は、89.1%と前年度より上昇している。

なお、総給水量、有収水量及び有収率の推移は、次表のとおりである。



(単位：m³・%)

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
総給水量 A	28,661,734	28,255,582	28,122,187	27,852,680	28,089,099	
有効 水量	有収水量 B	24,850,712	24,994,619	24,893,343	24,761,182	25,024,237
	無収水量	1,640,628	1,306,061	1,267,874	1,378,175	1,321,829
無効水量	2,170,394	1,954,902	1,961,067	1,713,323	1,743,033	
有収率 B/A	86.7	88.5	88.5	88.9	89.1	